

2. 評価シート

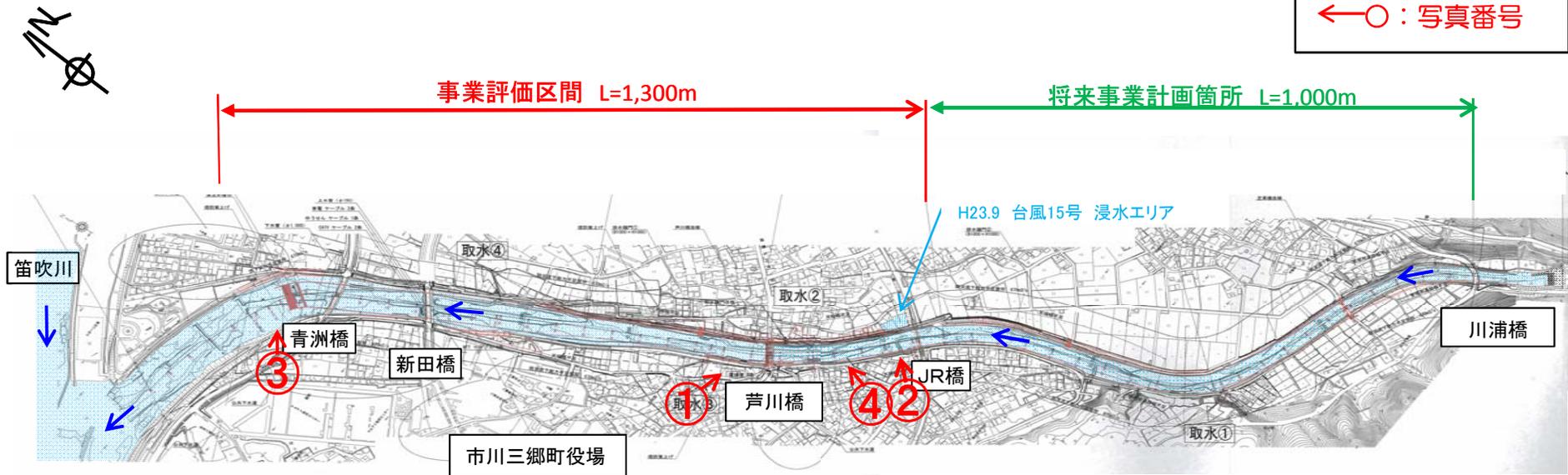
<p>(1) 公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	<p>(5) 整備手法の有効性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>
<p>(理由) ・河川法第1条および第9条により、河川の洪水防止を義務付けられている。</p>	<p>(理由) ・浸水被害を早期に解消するためには、河道拡幅及び河床掘削による河積の拡大が、流下能力を上げる最も有効な手法である。</p>
<p>(2) 事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	<p><input type="checkbox"/> 他の整備手法の有無 (状況) <有 <input checked="" type="radio"/> 無></p>
<p>(理由) ・県管理一級河川 (指定区間) である。</p>	
<p>(3) 経済効率性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	
<p>(理由) ・費用(C)=17.2億円 (内訳)建設費 15.9億円 維持管理費 1.3億円 ・費用(B)=761.8億円 (内訳)便益 760.9億円 残存価値 0.9億円 ・費用便益比 (B/C) =44.3</p>	<p>(6) 環境負荷への配慮 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) ・芦川に生息する生物の生息環境を創出することを目的に、河岸・水際に捨石を設置する。</p>
<p>(4) 事業実施・規模の妥当性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	
<p>(理由) ・平成23年に氾濫被害が生じており、流下能力不足の解消を図る必要がある。 ・破堤した場合に被害の影響が大きい築堤区間の整備を早急に実施する。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 同等施設等(計画を含む)の有無 (状況) <有 <input checked="" type="radio"/> 無></p>	<p>(7) 事業計画の熟度 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) ・事業区間には、平成23年に浸水被害もあり、地元からの強い要望もあったことから、今後、事業説明会を開催するなど周知を計っていく。</p>
<p><input type="checkbox"/> 必要整備量の根拠 (状況) 整備箇所の下流端は、計画流下能力を満足する青洲橋下流とした。また、上流端はH23.9の豪雨により被災したJR身延線上流までの改修延長L=1,300mとした。 河川幅、水深等河川断面は、流量計算及び河川管理施設等構造令による。 水深3.5m 余裕高1.0m</p>	<p>《総合評価》 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) 7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。</p>

3. 添付資料シート (1)

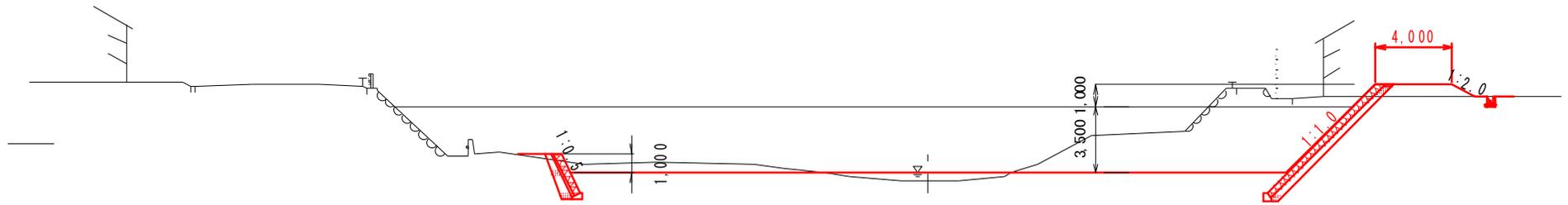
平面図

凡例

- 河川
- 写真番号



標準断面図



① 芦川橋下流



② 平成23年9月 台風15号被災箇所



③ 平成23年9月 台風15号出水状況 青洲橋下



④ 芦川橋上流 保全家屋

